

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム だんけぐーと		
所在地	岩国市周東町下久原407番地		
電話番号	0827-83-1122	事業所番号	3577200540
法人名	特定非営利活動法人 ありがとさん		

訪問調査日	平成 20 年 6 月 23 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 8 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	16 人	常勤	12 人 非常勤 4 人 (常勤換算 11 人)

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 40,000 円	敷金	有 100,000 円
保証金	無 円	償却の有無	有 / 無
食費	1日	1,200円	
その他の費用	月額	10,000 円	
	内訳	水道光熱費	

### (4) 利用者の概要 (6月23日現在)

利用者数	17 名		男性	2 名	女性	15 名
	要介護 1	1	要介護 4	3		
	要介護 2	3	要介護 5	4		
	要介護 3	6	要支援 2			
年齢	平均 85.3 歳	最低	77 歳	最高	94 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 山口平成病院、松井医院、玖珂中央病院、八木クリニック 歯科 山中歯科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

理念のひとつである「私達は今もっている力で地域住民の一員として暮らしてゆけるお手伝いをします」に基づいて、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるように、職員全員が意欲的に取り組まれています。「おもてなしの心はあるのか」等、(利用者とのかわり)や(あたたかくなるエピソード)などについて全職員からアンケートを取り、勉強会を重ねられ、職員自身が気づき、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう取り組まれています。「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに、利用者との心と関係が築かれており、職員同士のチームワークもよく、職員にとっては働き甲斐のある職場となり、利用者の笑顔につながっている様子が伺えました。

### (特徴的な取組等)

段階に応じた外部研修の受講、年1回外部講師に依る研修の機会、年間計画を立て毎月のテーマに沿って勉強会を開いている内部研修、新人についてはプリセプター方式で1年間の教育プログラムを作り、職員の育成に取り組まれています。カードックスを使い、ケアプラン、バイタル、個人連絡事項、ケア記録など一目でわかるようにし、個人記録の内容が、その時、その場面で連想できるような言葉で表現され、利用者一人ひとりの思いや意向の把握やケアに活かされるよう取り組まれています。月1回開催される地域交流会には、地域の人が30人程度参加され、利用者や家族も含めて地域の人と交流を深める場となっています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価の結果は職員全員で検討し、第三者委員の明示について改善に取り組まれています。

### (今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解し、全職員で自己評価について検討され、理事長・統括管理者が確認して作成されています。サービスの質や取組みについて考え、話し合う機会として捉えられています。

### (運営推進会議の取組状況)

自治会長・民生委員・消防関係者・社会福祉事務所長・地域包括支援センター職員・家族・法人代表・統括管理者・ユニット管理者等のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。行事や利用者の状況の報告を行ない、意見や要望等を聞かれています。災害時の自治会連絡網の作成などについて話し合われています。

### (家族との連携状況)

預り金の出納帳、写真を添えた手紙を毎月送付し、利用者の様子を伝えておられます。面会時や電話などでも報告したり、意見や要望を聞かれています。年4回発行のホームだよりにも行事の予定や報告、職員の異動を知らせるなど、家族との関係作りに努めておられます。

### (地域との連携状況)

自治会の清掃活動、地域の文化祭への参加、幼稚園・小学校の行事への参加や、散歩や買い物等で会話したり、近所の方が野菜等を届けてくださるなど交流されています。毎月1回、地域交流会を開催し、地域の人が30人程度参加し、利用者とも交流されるなど地域との連携が図られています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「私達は今もっている力で地域住民の一員として暮らしてゆけるお手伝いをします」という理念を、これまでの理念に加えて、全職員でつくっている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関・リビング等に掲示し、会議等で話し合い、理念を共有し、一人ひとりの尊厳を守り、地域でその人らしく暮らせるよう取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会の清掃活動、地域の文化祭への参加、幼稚園・小学校の行事への参加や、散歩や買い物等で地域住民と会話したり、近所の方が野菜等を届けてくれるなど交流している。毎月1回、法人主催で地域交流会を開催し、地域から30人程度の参加があり、利用者と交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が評価の意義を理解し、前回の外部評価結果について話し合っている。今回の自己評価は全職員で検討し、作成した。サービスの質や取り組みについて考え、見直す機会となっている。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>自治会長、民生委員、社会福祉事務所長、地域包括支援センター職員、消防関係者、家族等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、ホームの行事や利用者の状況の報告を行ない、メンバーから意見や要望を聞いている。災害時の自治会連絡網の作成などについての話し合いもしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者と密に連絡を取り合い、相談したり、助言を受けたりしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	預かり金の出納帳、写真を添えた手紙を毎月送付し、利用者の様子を伝えている。面会時や電話などでも報告し、年4回発行のホームだよりにも行事の予定や報告、職員の異動を知らせるなど家族との関係作りに努めている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを明確に定めている。ホーム入り口に意見箱を設置している。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員16名を確保し、日中3人体制を8時間とっており、利用者の状況の変化や要望に応じられるようにしている。特に重度化の利用者の多いユニットでは、調理担当の職員を配置し、ケアに十分対応できるようにしている。職員の急病や急な休みには、管理者やシフト外の職員で対応できるように柔軟な勤務の調整に努めている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職者があった時は、他の職員がフォローに入り、引き継ぎの期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修の受講、年1回外部講師による研修の機会を設けている。内部研修は年間計画を立て、毎月のテーマに沿って勉強会を開いている。新人についてはプリセプター方式で一年間の教育プログラムを作り育成している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、岩柳地区連絡会などに参加し、勉強会や他の施設見学、情報交換、交流を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、統括管理者や管理者が自宅に訪問し、本人や家族の話を聞いたり、ホームを見学してもらっている。入居が決まれば、居室に馴染みの家具を置き、慣れるまでは家族に泊ってもらったり、一緒に食事をしてもらうなどして、徐々に馴染めるよう取り組んでいる。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事の準備や花や野菜づくり、針仕事(手芸)などを一緒に行なう中で、話し合ったり、教わったりしながら、共に支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式による生活歴等の把握、日々のおしゃべりや、その都度、場面をとらえて、一人ひとりの思いや意向を把握してケア記録に残しケアに活かしている。困難な場合は家族から情報を得るなどして本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎朝のミーティングと月に1回全体会議を開催し、利用者に関わる課題を話し合い、それぞれの担当者が介護計画を作成している。電話や来訪時に家族の意向を聞いたり、日々のケア記録に残された利用者の思いや意向を把握してケアプランに採り入れている。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月ごとに評価を行ない、6ヶ月で期間に応じた見直しを行なうとともに、利用者に少しでも状態の変化があるときには、必要に応じて見直し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎や付き添い、退院時の支援、墓参、自宅訪問、理美容院、買い物(個別)などの送迎の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診について家族が付き添う場合は、状況報告を記した手紙を医師に渡すなどの支援をし、必要に応じて職員が家族と共に付き添っている。かかりつけ医の往診もあり、連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に重度化対応の指針を家族に提示し、同意を得ている。重度化した場合は、主治医、家族、関係者等でカンファレンスを開き、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	「おもてなしの心はあるのか」等、利用者とのかわりについて全職員からアンケートを取り、勉強会を重ね、職員自身が気づき、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう取り組んでいる。記録等の個人情報の取り扱いにも配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは、概ね決まっているが、起床や食事時間など、日々、その時々で利用者に合わせて支援をし、その人らしい生活ができるよう、一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は三食共ホームで調理して、ゆったりと時間をとって同じ食事を一緒に食べながら楽しめるよう支援している。利用者は調理の下ごしらえや配膳・下膳・後片付けなどを職員と一緒にしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者のほぼ全員が毎日入浴をしている。おおよその時間(13:30～18:00)は決まっているが、利用者の状態や希望に合わせて入浴の支援をしている。入浴を嫌がったり、拒否する利用者には、気分転換を図り、タイミングをみて再度声掛けをし、無理強いする事なく入浴が楽しめるよう工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビをみたり、歌をうたったり、裁縫をしたり、散歩や花や野菜づくり、食事の準備、後片付けなど一人ひとりに合わせた場面づくりをし、張りのある生活が送れるよう支援している。ホームの納涼祭参加者へのお土産として、パッチワークづくりを職員と一緒に楽しんでいた。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、ドライブなど、一人ひとりの希望に沿って外出している。出かけるときには、希望者以外の利用者にも声かけし一緒に戸外に出かけられるよう支援している。散歩の途中で地域の人と話をしたり、道端の草花を摘んで帰り、ホームに生けて楽しんでいる。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束や抑制について勉強会を開き、全ての職員が正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵をかけておらず、利用者は自由に外に出られるよう支援している。入り口に人が通ると鳴く犬の置き物があり、職員は利用者の行動パターンを把握し、外出を察知すると一緒に散歩するなど安全に配慮したケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒等、個別のマニュアルがあり、勉強会を行って事故防止に取り組んでいる。ヒヤリはっと・事故報告書に記録し、ケアカンファレンスで対応策を話し合い、一人ひとりの状態に応じたケアプランの変更等、危険の有無を把握し支援している。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応マニュアルにそって行動できるように勉強会を行っている。全職員が普通救命講習を定期的に受講し、急変や自己発生時に備え、日頃から話し合っている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策マニュアルを作成し、職員全員で周知して、年2回避難訓練を実施している。自治会と連携を取り避難時の協力が得られるよう働きかけている。散歩の時に避難場所に利用者と一緒に出かけ確認している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報(目的・副作用・用法等)を薬管理簿と個人記録等にファイルし、全職員が把握できるようにしている。服薬は、その都度手渡しし、確認している。服薬支援と症状の変化の確認に努め、必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや介助等で個々に応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管についての支援をしている。職員に歯科衛生士の資格者がおり、他の職員への助言や利用者への支援をしている。歯科医の往診もある。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し、個々の食事量や形態(刻み・ミキサー・とろみ等)を一人ひとりに合わせた支援をしている。一週間分の献立を見てもらい、栄養バランスなどについて助言を得ている。水分は1日1200mlを目安に確保できるよう支援している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、予防を実行している。布巾、調理器具、冷蔵庫等、夜勤者が毎日清掃・消毒している。利用者・職員全員がインフルエンザ予防接種を受けている。手洗い、うがいも徹底している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には畳のコーナーやソファがあり、絵や写真、季節の花を飾り、利用者がテレビを観たり、横になったり、くつろげるよう居場所作りを工夫している。窓を開け外の空気を取り入れ、ベランダにはプランターに花を植え、食事を作る際の音や匂いも含めて五感に働きかけるよう支援をしている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、机等、使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、家族の写真や好きな物を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	NPO法人ありがとさん グループホーム だんげぐーと
所在地	岩国市周東町下久原407番地
電話番号	0827-83-1122
開設年月日	平成 14 年 8 月 8 日

## 【実施ユニットの概要】 (5月1日現在)

ユニットの名称	1F			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護1	0	要介護4	1
	要介護2	1	要介護5	3
	要介護3	4	要支援2	0
年齢構成	平均 85.3 歳	最低 77 歳	最高 94 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフと話し合い、理事長、統括管理者に確認してもらい評価を書いた。
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに利用者さん一人ひとりに合わせた支援を心がけています。人として普通に生活できることを目指します。認知症を疾患として、正確にとらえた上でその人にとって、あたりまえの生活ができるようお手伝いさせていただいています。

介護する人、される人の関係でなく、一緒に生活している人として目配り、気配り、心配り、そして思いやりを胸に穏やかな笑顔でかかわっていきます。

意欲的なスタッフが多く、さまざまなアイデアを出し合い楽しいイベントやちょっと個性的なケアプランを実施しています。

プリセプター方式の導入、院内研修の年間テーマと計画を立て実施。また外部研修にも積極的に参加し人材育成にも力をいれています。



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		そのような理念にしている。
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		管理者、スタッフ、共に理念を共有し日々取り組んでいる。
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		リビングに運営理念を言語化し、掲示して職員と共有している。
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		サービスの質の向上に向けて日々取り組んでいる。
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		年4回の「だんけ通信」を地域にも配布している。年6回運営推進会議、毎月1回地域交流会を開催している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		散歩の時などに近所の方と挨拶したり、お話をさせていただいている。
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		自治会での清掃活動、地域の文化祭などへの参加、幼稚園、小学校の行事への参加を行っている。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		運営推進会議や地域交流会などを通じて話し合いをし、取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	<p>○<u>評価の意義の理解と活用</u>            運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>今までのサービスを見直すことができ、気付かなかった事にも気付く事ができ改善することができる。</p>	
10 (5)	<p>○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>行事や日常生活の報告、予定を発表しご家族や地域の方から意見や要望を聞くことができより良いサービスになるよう取り組んでいる。</p>	
11 (6)	<p>○<u>市町との連携</u>            事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>そのように取り組んでいる。</p>	
12	<p>○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u>            管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	<p>権利擁護や成年後見制度について学び活用した事もある。</p>	
13	<p>○<u>虐待の防止の徹底</u>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に参加し、スタッフ全員で取り組んでいる。</p>	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	<p>○<u>契約に関する説明と納得</u>            契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に重要事項説明書など十分な資料に基づき説明している。</p>	
15	<p>○<u>運営に関する利用者意見の反映</u>            利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の会話の中で困っていることがないか、どんな事をしてみたいかなどを聞き出している。</p>	
16 (7)	<p>○<u>家族等への報告</u>            事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月1回利用者さんの様子をご家族に写真を添えた手紙を出したり、変化のあったときはその都度報告をしている。お預かり金は毎月出納帳を送付している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要望があれば対応できる体制になっている。		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	重要事項説明書にも苦情相談窓口、外部苦情申し立て機関を明示している。苦情処理対応マニュアルも作成している。第三者委員も外部苦情申し立て機関として設置している。また玄関に意見箱をおいている。		
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ全員参加のミーティングや主任会議で反映させている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に応じ、勤務時間を変更している。また日勤者の人数を増やして利用者に対応している。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	他のスタッフがフォローに入り取り組んでいる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への積極的な参加、内部研修では年間の予定を立て毎月のテーマを作り、スタッフ全員で勉強会を開いている。年に1度は外部から講師を招いての勉強会も行っている。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から50代のスタッフをバランスよく配置しその時々に応じた対応をしている。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会などに参加し地域の同業者の方々との交流がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u>            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u>            運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u>            運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u>            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u>            相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u>            相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u>            本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u>            職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>○<u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>○<u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>○<u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p>○<u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p>○<u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	○	<p>継続的な関わりを必要とされるご家族には、関係を断ち切らない関わりを考えていきたい。</p>
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15)	<p>○<u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p>○<u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p>○<u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	<input type="checkbox"/> <b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<input type="checkbox"/> 訴えのできる方には話を聞き訴えの困難な方からは日頃の様子から検討し、ご家族からも要望を伺いながら計画を立てている。	
42 (17)	<input type="checkbox"/> <b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	<input type="checkbox"/> 見直しを定期的に行っている。また対応できないような変化が出た時は随時計画の変更をしている。	
43	<input type="checkbox"/> <b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	<input type="checkbox"/> ケア記録に気づき、日々の様子を書きバイタル表などと共にカードックスに個別にまとめ、情報を共有できるようにしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	<input type="checkbox"/> <b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	<input type="checkbox"/> デイサービスに行かせていただいている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	<input type="checkbox"/> <b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議のメンバーとして民生委員や消防団の方にも参加していただいている。	
46	<input type="checkbox"/> <b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	<input type="checkbox"/> 毎月1回地域交流会を開いている。ボランティア、見学も受け入れている。	
47	<input type="checkbox"/> <b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、医院の看護師さんが来られたりする。地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と連携をとり、支援する体制にある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	<p>ターミナル期の利用者さん、ご家族への対応のしかたなど、スタッフ全員が共通の認識を持って動けるように勉強会を開きたい。</p>
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーに配慮した言葉かけや、記録をおこなっている。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者さんがわかりやすく、答えやすいような声かけをするように心がけている。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事などを役割として行ってもらったり、さりげない声かけをしながら一緒に行ったりしている。	
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者さんが自分のペースで自由に生活している。無理じいする事なく、入浴や食事、就寝や起床のメリハリは大事にしつつ、体調に合わせて柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問美容室を利用しているが、希望があれば行きつけの美容院を利用することもできる。	
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	スタッフと利用者が一緒に調理や盛り付け、後片付けまでを行う。一緒のテーブルで食事をする。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙は指定の場所で、お酒はイベント時に準備をし雰囲気を楽しんでもらえるようにしている。おやつは時間と量を配慮して出している。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	落ち着かずに歩き出したり、不安げな表情でいる時などの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけやトイレ誘導をしている。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<input type="checkbox"/> 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	<input type="checkbox"/> 安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<input type="checkbox"/> 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<input type="checkbox"/> お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<input type="checkbox"/> 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<input type="checkbox"/> 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	<input type="checkbox"/> 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	<input type="checkbox"/> 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<input type="checkbox"/> 家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
90	<input type="checkbox"/> <b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<input type="checkbox"/> 玄関は日中常に自由に出入りできるように鍵はかけていない。	
91 (36)	<input type="checkbox"/> <b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	<input type="checkbox"/> 天候や時間に合わせ空調や換気を行っている。季節の花や飾り付けをし、季節感などを感じてもらえるように工夫している。	
92	<input type="checkbox"/> <b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<input type="checkbox"/> リビング内の3台のテーブル、畳のスペース、テレビの前のソファなどその時々に応じて好きな所で過ごせるようになっている。	
93 (37)	<input type="checkbox"/> <b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<input type="checkbox"/> 本人やご家族の好みのもの、以前から使っていた物を使用してもらっている。	
94	<input type="checkbox"/> <b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	<input type="checkbox"/> 掃除の際窓を開け換気をしたり、換気扇をかけるなど配慮している。温度計を見ながら冷暖房を使用している。	
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
95	<input type="checkbox"/> <b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	<input type="checkbox"/> 廊下、トイレ、浴室、脱衣場には手すりがあり安全に歩行、移動ができるようにしている。	
96	<input type="checkbox"/> <b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	<input type="checkbox"/> トイレ、お風呂場の入り口には張り紙をして、迷わないようにしている。各居室の入り口にも表札をつけている。	
97	<input type="checkbox"/> <b>建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	<input type="checkbox"/> 敷地の南側に小さな畑があり野菜や花などを植え手入れや収穫が楽しめるようになっている。ベランダでウサギを飼っており餌をあげたりながめたりして楽しまれている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input checked="" type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム だんけぐーと
所在地	山口県岩国市周東町下久原407番地
電話番号	0827-83-1122
開設年月日	平成 14 年 8 月 8 日

### 【実施ユニットの概要】 ( 5 月 1 日現在)

ユニットの名称	2F							
ユニットの定員	9 名							
ユニットの利用者数	9 名		男性	3 名		女性	6 名	
	要介護 1	1		要介護 4	1			
	要介護 2	2		要介護 5	1			
	要介護 3	3		要支援 2				
年齢構成	平均	84.9 歳	最低	77 歳	最高	91 歳		

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	ユニットのスタッフで話し合い、理事長、統括管理者に、確認、指摘を受けながら最終評価を出した。
評価確定日	平成 20 年 5 月 23 日

### 【サービスの特徴】

- ・「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに、利用者さん一人ひとりに合わせた支援を心がけています。
- ・認知症を、疾患として正確に捉えた上で、その人にとって当たり前の生活ができるよう、お手伝いさせて頂いています。
- ・介護する人、される人の関係でなく、一緒に生活している人として、目配り、気配り、心配り、そして思いやりを胸に、穏やかな笑顔で関わっていきます。
- ・意欲的なスタッフが多く、様々なアイデアを出し合い、楽しいイベントや、ちょっと個性的なケアプランを実施しています。
- ・プリセプター方式の導入、院内研修の年間テーマと、計画を立て実施、又、外部研修にも積極的に参加し、人材育成にも力を入れています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでほしい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフ皆で自己評価をする事で、自分たちの提供するサービスを見つめ直す事ができ、自分一人では気付かない事にも気付く事ができる。又、改善に向けて皆で取り組める。	
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	行事など、日々の活動報告をさせて頂き、ご家族や地域の方から、ご意見やご要望を頂き、話し合いがなされている。内容は他のスタッフにも周知し、より良いサービスの提供が出来るように、取り組んでいる。	
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町の担当者と、密に連絡を取り合い、相談し、助言を頂きながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護や成年後見制度について学び、活用した事例もある。	
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての研修に参加し、他のスタッフへの伝達講習を行い、スタッフ全員で、虐待についての再認識をした。そのような事のないよう、スタッフ全員で取り組んでいる。	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時も、解約時も、十分な説明をするよう心がけ、ご家族等の、不安や疑問に答えることが出来るように取り組んでいる。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の会話のなかで、何か困っている事はないか、どんな事をしてみたいかなど、聞きだせるよう、努力している。	○ 利用者が、不満を訴える事がなかなかできないと思うので、言葉以外のサインを見逃さないように、スタッフ全員が、よりいっそうの目配り気配りをしていく必要がある。
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	お預かり金に関しては、毎月、利用料請求時に出納帳を送付。写真添付の手紙を同封し、普段の様子を伝えている。また、面会に来られた時にも、短い時間ではあるが、利用者さん、ご家族と一緒に話す時間を持てるように心がけている。	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要請に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフの親睦会なども開かれており、その場で色々な部署の方と話す機会もある。日ごろから、悩み事などを話しやすい環境にあると思う。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	ステップアップシートを活用し、1年間の目標を立てて、各自努力し、評価している。研修や講演会の案内を回覧し、スキルアップしやすい環境をつくっている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	資格手当、昇給等により、処遇改善を行って、働きたいという意欲が持てるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前に訪問調査を行い、ご本人から、心配事や困っている事はないかなどを聴くようにしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前の訪問調査で、心配事や困っている事、不安な事や疑問などを聴くようにしている。また、電話や、ホームへの訪問でも、それを受け入れている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族にお話を聞いて、何に困っているのか、何が必要かを、スタッフが一緒に考え、見極める努力をしている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	居室に馴染みの家具などを置いたり、利用者さんによっては、始めにご家族に泊まって頂いたり、食事を一緒に採って頂いたりしながら、安心できる環境を整備している。ご本人やご家族に、自宅での生活についても聞きながら、その都度相談、対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に何か作業をするなかで、スタッフは教えて頂くという姿勢で接し、一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共に生活している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	<input type="checkbox"/> チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<input type="checkbox"/> 訴えの出来る方には希望を聞き、訴えの困難な方はその方の毎日の様子から検討し、ご家族にも、ご要望を伺いながら、介護計画を立案している。	
42 (17)	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	<input type="checkbox"/> 介護計画の見直しを定期的に行い、また、対応できない変化が生じた場合には、随時話し合いを行い、計画の変更をしている。	
43	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	<input type="checkbox"/> ケア記録に、日々の様子やケアプランに関する事で行った事や、気づきなどを記入し、介護計画や連絡事項、検温表など、カードックスに個別にまとめ、情報の共有に努めている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	<input type="checkbox"/> その時々々の状態やご家族等からのご要望によって、居宅介護支援事業所のケアマネに話を聴いたり、デイサービスにお邪魔させて頂きながら、対応している。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議のメンバーとしても、民生委員や消防関係の方にご協力頂いている。	
46	<input type="checkbox"/> 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	<input type="checkbox"/> 地域住民を対象に、月に1回、地域交流会を開催している。また、ボランティアや、見学の受け入れも行っている。	
47	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、地域の他の介護支援専門員や、サービス業者と連携をとり、支援する体制にある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーに配慮した言葉かけや、記録を行っている。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者さんが分かりやすく、答え易いような言葉かけをするように心がけている。	
58	○“できる力”を大切にしながら家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事や居室の整理など、できるところはやって頂きながら、困難なことをお手伝いするようにしている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	その人その人が、ご自分のペースで過ごされていると思う。無理強いする事なく、本人の体調に合わせ、柔軟に対応している。	
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	お化粧をされる方もいらっしゃるし、服もご自分で選んで着たりされている。理容・美容は、ご本人、ご家族に伺ってして頂いている。以前は行き着けの美容院に行かれる方もおられた。今後希望があれば、そのように対応できる体制にある。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下ごしらえや、配膳、後片付け等、其々に分担しながら一緒に行っている。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	現在はいらっしゃるが、以前はお酒を飲んだり、たばこを吸ったりする方もおられた。おやつ等は、ご家族が持って来られたり、買い物で買って来たりして、其々楽しまれている。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	それぞれ、トイレの声かけや介助を行い、できるだけトイレでの排泄を促し、清潔に気持ちよく過ごして頂けるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p>○人浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p>○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	<p>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	日中は玄関を開放しており、ご近所の方も出入りできる。玄関周りは花を植えたりして、明るい雰囲気であると思う。	
91 (36)	<p>〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>	共用の空間には、絵や写真、花などを飾り、過ごし易い工夫をしている。利用者が不快な気持ちにならないように努めている。	
92	<p>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングだけでなく、それぞれの居室や、北側ベンチ、談話室など、思い思いの場所で過ごせるよう、努めている。	
93 (37)	<p>〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人の馴染みのものや、ご家族の写真などを飾り、安心して過ごせるように工夫している。	
94	<p>〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	定期的に喚起をしたり、温度調節をして、過ごし易い空間になるように配慮している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<p>〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>	室内はバリアフリーで、手すりを備え、安全に移動、生活が出来るように工夫してある。	
96	<p>〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	混乱がある時には、寄り添って、出来るだけ早く、不安を解消できるように努めている。	
97	<p>〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	玄関前の花壇や、ベランダには花を植え、裏の畑には野菜を少し植え、一緒に育てたり、手入れをしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、活き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない